

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100400		
法人名	有限会社 ライフ・ワーク		
事業所名	グループホーム 音符		
所在地	秋田市土崎港北1丁目13-43		
自己評価作成日	平成27年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音符の理念にもあるように、スタッフも入居者様もご家族も笑顔でいられるように、これまでと同じように生活の音・人の声・笑い声など穏やかであたたかい音に包まれた日々の生活を作りながら、心を通い合わせていきたいと思ひます。できるだけ自分で出来る事は続けていく自立支援を柱にスタッフと一緒に毎日を生活していけるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街の中にあるが、近隣には大型のスーパーが点在し、買い物や散歩など暮らしに便利な立地である。また、隣には同じ法人の事業所があるため、行事や職員研修を合同で開催したり、非常時などは協力体制が取れるなど、心強い環境といえる。平成22年の開設当初から、職員は、利用者がみんな元気で、笑って、時に怒って、声を出して、賑やかに毎日を過ごせるよう、自然体で暮らしの支援をしてきた。その姿勢は、日々の利用者の多くの笑顔、ご家族の安心と信頼に繋がっている。地元のお祭りに初めて出店を出して町内の方々や利用者には喜ばれたり、会議をきっかけに災害時ご家族の駆け付け協力を得ることが出来たりと、日々努力を重ねている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をスタッフ全員で話し合っ て決め、共有している。入居者の現状に寄り添 うケアを行なっている。	平成22年の開設当初より、事業所名「音符」に象 徴されるように、みんな元気で、笑って、怒って、声 を出して、賑やかに日々を過ごせるよう、スタッフ 一同自然体で暮らしの支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流し ている	町内の回覧を活用し、地域の行事など参加して います。夕涼み会など地域の方々をお招きして 楽しんでいただいています。	今年の土崎の曳山祭りでは、事業所の夕涼み会 も兼ねて、初めてジュース、かき氷、くじ引きなどの 出店を出した。特にくじ引きは地域の方の人気を 博し、利用者も楽しむことができた。他にも町内の 災害訓練に声をかけてもらったりと、地域とのつな がりが着実に出来てきている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地 域貢献している	運営推進会議を通じ、町内会長をはじめとした 委員の方々理解をいただき、生活状況や、食 事風景などみていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、意見や情報の交換が行な われています。講習会も行われたりとスタッフの 向上に活かしています。	定期的に行われている会議では、情報交換の他 に、地域包括職員による感染症の講習会を開いた り、近くの薬局の薬剤師を招き、薬について話を聞 いたり、研修の場としても活用している。また、会 議の中から近隣のご家族が災害時駆け付けをし てくれることになり、大きな成果を上げることが出 来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方には、相談や指導を頂いています。	介護保険制度の変わり目である今年度は、市の 職員から指導を受ける機会が多くあった。また、市 の保護課とも利用者のことで連携を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに 取り組んでいる	研修や勉強会を行い、スタッフの理解を深めて います。ご家族には身体拘束の説明と同意書 にてご理解をいただいております。スタッフは毎 月ケアカンファレンスを行い、身体拘束解除に 向けて進めていく事を周知し、理解しています。	現在、大腿骨骨折後認知症の症状が進んだ利用 者に、止むを得ず夜間のみ身体拘束を行っている 。事業所にはマニュアル等が整備されているの で、ご家族の同意や拘束期間の明示等は確実に 行っていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を行い、スタッフの理解を深めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括開催の勉強会を開いていただき、職員研修にて学び理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族に説明して、同意を得ています。一部を家族に渡しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。家族への年1回のアンケートを行ったり、スタッフの写真と名前が分かるように貼っています。毎月「音符たより」を発行したりと、話しやすい環境や信頼関係を大事にしています。	苦情の仕組みは整っている。また年に一度16項目にわたる家族アンケートを実施し、事業所に対してご家族が意見を出せる機会を提供するなど、優れた取り組みを行っている。この他にも職員は普段からご家族が気軽に話せる環境づくりに努め、年々その関係は深まってきたと感じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、ミーティングを開催しています。	日に3回の申し送り時、月に1回のミーティングやケアカンファレンス時に、職員から色々な話が出て「まずはやってみようよ」を合言葉に、フットワーク良く動いている。管理者のお人柄か、職員同士の仲も良く、利用者の笑顔も多い。	管理者と職員、また職員同士の日常的なコミュニケーションはとても良くとられていて、風通しのいい職場である。今後は更に、法人、管理者で、職員との人事面を含めた定期的なヒヤリングの実施を検討してほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務権限規定の整備、交付金の申請における支給、研修参加の充実を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の充実を図り、資格取得のバックアップなどの向上心を育てる環境作りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会の会員、秋田県認知症グループホーム協会の会員にもなり、研修等に参加出席し交流を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問面談や見学、体験などの時間を経てご家族やご本人の納得・理解を得ています。「暮らしの情報」「バックグラウンドアセスメント」など活用しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人を含め時間をかけて理解していただく機会を作っています。事前に訪問面談や見学・体験などの時間を経て、家族の状況を理解・考慮するように努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の自立支援をしながら、一緒に楽しむ機会を作ったり、人生の先輩としての知恵などを教えていただく環境を作っています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人との絆を大切にしていくために会話の中にご家族の話題やご本人の日々の様子を伝えていきます。家族との外出の機会を作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、親戚の方々の面会などの際はお茶を飲みながら、ゆっくりと楽しめるように環境作りを心掛けています。	利用者のこれまでの関係を「暮らしの情報」や「バックグラウンドアセスメント」等できちんと把握し、外出への支援をお願いするなど、関係が途切れないよう配慮している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しめるように、スタッフが状況を把握し支援や対応をしています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退居の時など退院後の相談・支援をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや訴えに十分耳を傾け、スタッフ同士検討し、沿えるように努力しています。	各居室ごとに担当者を配置しており、一緒に洗濯物をたたんだり、部屋の中の整理をしたりして、自然な状況でご本人の気持ちを聞いている。「家に帰りたい」、「寿司屋に行きたい」等々、出来ることは希望に沿えるようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談や情報などスタッフ全員で共有しています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを把握し、一人ひとりの状態に応じて支援に努めています。生活歴や暮らしの情報をスタッフで共有し検討します。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンスに基づき検討・見直しを行なっています。モニタリングも活用しています。	介護計画は、ADL評価の実施やスタッフの意見、ご家族の要望等を十分に吟味して作成されている。モニタリングに際しては、ご家族に「モニタリング記録表」を送付して実際に記入してもらうなど、ケアプランを形骸化させないための優れた取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と申し送りの徹底を行なっています。月に一度のケアカンファレンスを行なっています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴を把握・共有し、生活環境や家族環境を充実できるように支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関で受診して対応しています。相談できるかかりつけの薬局があります。	協力医療機関はあるが、利用者のご家族の希望を尊重して個々のかかりつけ医への通院支援を行っており、ご家族から喜ばれている。通院の結果は、ご家族の希望に沿って、都度の報告、何かあった時には報告など柔軟に対応している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はほとんど毎日来所して、健康状態の変化等報告して、指導・相談できる体制にあります。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族と情報を共有し、面会時には情報交換に努めています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本の指針のもと、重度化された場合は、入居者一人ひとりの状態に合わせた指針を作成し、チームで取り組んでいきたいと思っています。スタッフの研修と勉強会を行い、準備や対応の流れの周知を図りました。	法人全体で終末期ケアについての基本的な指針を定めている。当事業所では、まだ看取りの経験はないが、希望があれば条件整備を行いつつ、取り組んでいきたいと考えている。昨年の課題であった研修の実施については、同法人内の看取りを経験した事業所の職員から話を聞くなどして、イメージトレーニングを行った。今後も研修の開催を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修を行なっています。緊急時のマニュアル作成して、職員把握するように努めています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いによる年2回の避難訓練の実施。緊急マニュアルの掲示。地域の訓練への参加。町内の役員の方々と災害対策を確認し、協力体制の図の作成・構築する。	建物内はオール電化で、スプリンクラーや排煙窓などの設備を備えている。定期的な避難訓練や緊急時対応の研修も行っている。また、震災の経験を活かして、非常用食料やカセットコンロ、発電機などの備蓄も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングでの勉強会を行い、スタッフの理解を深めています。	職員は、利用者に接する際の言葉遣いや態度について、堅苦しくならないよう且つ馴れ馴れしくならないように気を配っている。また、利用者の人権尊重について、外部講師による研修も行っている。個人情報の取り扱いについては、規程に従い適正に処理されている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を汲み取り、自己決定の支援に心掛けています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるように、環境作りに努力しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご本人の希望を重視して支援しています。床屋・美容院は2ヶ月に一度行なっています。特に女性は着替え等ご本人の希望を聞きながら進めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	漬物を漬けたり、モヤシのひげとり・煮干の頭とり・お茶のパック詰めなど食事作りに参加する機会を増やしています。食器拭きなど自主的に手伝ってもらっています。	料理上手なスタッフが多くいるため、利用者は毎日の食事を楽しみにしている。行事食も職員のお手製が多い。おやつ作りは、今後彼岸に向け、おはぎ作りを予定している。昨年の課題であった専門家による助言は、外部の栄養士から献立について指導をもらっている。	今後は更に、栄養士からのアドバイスを定期的なものにしたり、助言者に事業所の状況をより深く理解してもらう工夫をするなどして、利用者に喜ばれる献立を提供してほしい。
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを個々に記録している。個々の状態に応じて食事形態を考えて対応しています。毎日の献立で食事バランスが摂れているか、栄養面も含めて専門の方からの助言を頂いています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行なっています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記録しています。排泄パターンの把握。定期的な誘導等行なっています。	トイレはフロアー内に三箇所あり、いずれも広々として使いやすい造りになっている。現在排泄介助者が4名いるが、バイタルチェック表の中の排泄チェック部分を活用して、パターンの把握や誘導、水分補給等を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や排便パターンのチェック。主治医への相談など行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や受診の前など随時対応しています。	浴室は1箇所あり、家庭的な造りになっているが、洗い場が広くとられているので、利用者も介助を受けやすい。入浴の回数は週2、3回を基本とし、状況については、バイタルチェック表に記入している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は午睡されています。疲れたときなど居室に戻られ横になられています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録のファイルに綴り、スタッフが情報を共有し、変更などの場合は申し送り等徹底しています。薬はホームの鍵付の棚にて保管・管理しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや趣味を把握し、コミュニケーションをとっています。出来ることをしていただき、役割を持って生活出来るように支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	季節ごとの外出レクも実施しています。お天気の良い日など散歩に出かけます。家族が病院受診に付き添われる入居者もおります。ご家族との外食や旅行など一人ひとりの家族環境に応じて支援しています。	外出の際に使用する車両については、当事業所が1台、隣接する系列事業所が2台、本社に大型車1台を保有している。行事外出の他に、散歩や買い物などの日常的な外出支援も行っている。また、ご本人の希望によっては、ご家族の協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホームで管理しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をしたい時や電話の取次ぎ・手紙はその都度対応しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように心がけ、スタッフと入居者さんが毎月の季節に合わせて作品を作っています。	食事や語らい、作業をする場であるリビングには、座り心地の良さそうなソファが置かれていて、加湿器や温度計、湿度計等で健康にも配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファや食卓にて皆さんと過ごしたり、居室で他の方々と会話を楽しまれたりと環境作りを心掛けています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と話し合いながら、馴染みのものや好みを持っていただいたりと、居心地の良い部屋作りを心掛けています。	各居室のドアには、大きな字で名前が書かれており、見当識障害の防止に役立っている。居室には、ベットと棚、物入れが備え付けてあり、ご本人の物の持ち込みは自由である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが一人ひとりの情報を共有し、入居者様の行動には目配り・気配りを忘れず、安全な環境で生活出来るようにしています。		